

【設計編】

Q1：産業廃棄物の処理は、査定設計書の計上できますか。

A1：搬出場所（処理先）が想定できる場合には、運搬費及び処分費等を計上してください。
なお、その際、発注時の設計と同様に、運搬費と処分費は処分先による経済性の検討を行ってください。

Q2：大型土のうは、どのように計上は？

A2：査定設計書への計上は、必要範囲（高さ×延長＝面積）を1個当たりの面積（1.08×1.10）で除した値（個数）としてください。

Q3：共通仮設費及び用地取得に係る費用は、どうしたら良いでしょうか？

- A3：①重建設機械等の分解・組立及び輸送費とともに、仮設材（H鋼材、敷鉄板等）の積込、運搬等は運搬費に計上してください。
- ②仮設材の運搬基地局は、工事箇所のある地市町村役場としてください。
- ③支障木の伐採・集積及び処理（運搬含む）は、準備工に計上してください。（要見積）
- ④現場条件等から交通誘導員等が必要な場合は、安全費に計上してください。
- ⑤資材搬入路等の設置に、借地が必要となる場合は、役務費に計上してください。
（土地単価は用地課に近傍の売買事例等を照会してください。その額に所定の率（0.05又は0.06）を乗じるとともに12（月）で除した数値を単価としてください。（〇〇円/月）
- ⑥地すべりセンサー及び土石流センサー等の設置・撤去及び測定に要する費用は、技術管理費に計上してください。

Q4：河川工事における土工の統一事項は？

- A4：①残土処理の土量には、損失（10%）を見てください。
- ②仮締切及び工事用道路の盛立はルーズとし、工事用道路にみにブルの敷均し・締固めを計上してください。
- ③埋戻もルーズで積算してください。

Q5：護岸工の足場工は、計上すべきでしょうか？

A5：計画河床から上を足場工対象面積としてください。また、勾配は1割以上となっています。

Q6：水替日数は、どのように算出したら良いでしょうか？

A6：水替え対象の工種別に、対象範囲を確認し、標準作業量で除した値の総和を算出してください。
更に、工事に関する準備日数（仮設材の在场日数相当：5日）を加算したものとしてください。

Q7：仮排水パイプの延長は、どの程度計上したら良いでしょうか？

A7：着工延長に仮排水パイプ1本分（定尺）を加算した延長を計上してください。

Q8：水替ポンプの規格は、どのようにしたら良いでしょうか？

A8：湧水量のデータがない場合には、
①小規模河川… $\phi 150\text{mm} \times 1$ 、②中規模河川… $\phi 200\text{mm} \times 1$ 、③大規模河川… $\phi 200\text{mm} \times 2$ とし、作業時排水を計上してください。

Q9：工事用道路に敷鉄板を敷設する場合、在场日数はどのように算出するのでしょうか？

A9：原則、工事用道路は、敷砂利によるものとしますが、現場が軟弱でトラフィカビリティーが確保できない場合には、敷鉄板を計上してください。
その際、“Q6の水替日数の算出”と同様に、必要作業を標準作業量で除した値の総和に準備及び片付けに必要な日数として、9日（5日と4日）を加算してください。

Q10：残土処理は、どのように計上したら良いでしょうか？

A10：処理量が大量となる場合を除き、河床掻き均し（ルーズ）を原則とします。また、工事範囲の前後を含めて、概ね厚さは20cm程度とします。掻き均しの際、淵の喪失のないように配慮してください。
なお、大量となる箇所については、所在地の市町村から聞き取りの上、処理場を選定してください。